

3. 履修方法

○専門職学位課程の履修基準（履修最低単位数）

専門職学位課程（高度教職実践専攻）の修了要件は以下の履修基準表の通りです。

履修基準表

専攻	履修科目				計
	共通科目	選択科目	実習科目	課題研究	
高度教職実践専攻	20	10	10	8	48

- (1) 共通科目は、全員必修です。実習科目、課題研究は、取得希望免許種によって、履修科目が異なります。4-2)ならびに「教育学研究科規程」31～32 ページの別表を参照してください。
- (2) 選択科目は、5つの科目群の中から主に2つの科目群を選択し、合計10単位以上を履修します。科目群の選択にあたっては、指導教員の指導の下、自分の今後のキャリアなどをにらみながら適切な科目を選択してください。また、「特別支援教育に関する科目群」から選択するためには、「特別支援教育特論」を履修済みである必要があります。
- (3) 実習科目、課題研究は、特別支援学校教諭専修免許取得希望者については、4-2)に履修すべき科目を示しています。それ以外の院生は、「実習科目群」「課題研究科目群」から選択します。
- (4) 履修登録の上限は、年間で50単位です。

4. 教員免許（「教育学研究科規程」31～32 ページの別表もあわせて参照してください）

1) 取得できる免許状の種類

高度教職実践専攻において取得できる専修免許状は、以下の通りです。ただし、専修免許状の取得資格を得ようとする場合は、取得しようとする専修免許状の1種免許状を有することが必要です。

- ・小学校教諭専修免許状
- ・中学校教諭専修免許状
- ・高等学校教諭専修免許状
- ・幼稚園教諭専修免許状
- ・養護教諭専修免許状
- ・栄養教諭専修免許状
- ・特別支援学校教諭専修免許状

2)免許取得のための必要単位数

- ① 幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状、高等学校教諭専修免許状、養護教諭専修免許状、栄養教諭専修免許状取得のためには、別表「教職課程」欄に当該免許種が書かれている授業科目から 24 単位以上取得しなければなりません。
- ② 特別支援学校教諭専修免許状取得のためには、特別支援教育に関する科目、特別支援教育に関する実習科目、特別支援教育に関する課題研究科目から 24 単位以上取得しなければなりません。履修すべき科目は、次表の通り、勤務校種等によって異なります。

	現職院生 (特別支援学校勤務)	非現職院生	現職院生 (特別支援学校以外勤務)
共通科目	共通科目 20 単位を履修する*		
選択科目	特別支援教育に関する科目群のうち、「特別支援教育特論」「特別支援教育システム論」を履修する		
	同科目群のうち、その他の科目から 2 単位履修する	同科目群のうち、その他の科目から 4 単位履修する	
	5 つの選択科目群（特別支援教育に関する科目群を含む）から 4 単位履修する		
実習科目	特別支援教育に関する実習科目群より、課題発見実習 I A（特別支援教育）*、課題発見実習 I B（特別支援教育）、課題発見実習 II（特別支援教育）を履修する		
	特別支援教育に関する実習科目群より、課題解決実習（特別支援教育）を履修する	実習科目群より、課題解決実習を履修する	
課題研究	特別支援教育に関する課題研究科目群 8 単位を履修する		

*印は、特別支援学校教諭専修免許状の課程認定を受けている科目ではないが、必修指定となっている科目

5. 修了要件等

課程の修了のためには、次の要件を満たすことが必要です。

- 1) 標準修了年限：標準修了年限は 2 年とします。なお、学生は 4 年を超えて在学することはできません。
- 2) 修了要件：共通科目 20 単位、選択科目 10 単位、実習科目 10 単位、課題研究 8 単位の計 48 単位以上を修得するとともに、課題研究の成果を公表し、専攻会議における審査に合格しなければなりません。

6. 学位

高度教職実践専攻の課程修了者には、教職修士（専門職）の学位を授与します。

(6) 高度教職実践専攻

区分	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程
共 通 科 目	① 教職課程の編成・実施に関する領域	教育課程編成の課題と実践	2 児童生徒の系統的な学びを見据えた現任（採用希望）校種の教育課程の編成について理解するとともに、現任（採用希望）校の実際を事例にしながら現在の教育課程の良さや問題点や反省点を分析しつつ、教育課程内外の活動の融合や個に応じた指導、時代や社会が要請する諸事項に応えうる教育課程編成の力量の向上を図る。特にカリキュラムマネジメント（カリキュラムを主たる手段として学校の課題を解決し、教育目標を達成する営み）の重要性を再認識し、とりわけ沖縄県の教育課題に応える教育課程の在り方に迫る。	幼小中高養栄
		指導と評価の課題と実践	2 現任（採用希望）校で実際に担当している教科指導を例にし、教科の目標と内容、評価の観点と具体的な評価規準、評価技法（方法）と評価基準についての理解を深めるとともに、児童生徒の学力の把握と個に応じた指導と支援の充実に応える指導と評価の計画を作成・提案する。とりわけ沖縄県の教育課題である「学力向上（学力不振からの脱却・学習意欲の向上）」に応えることに迫る。	幼小中高養栄
	② 教職課程の実践的な指導方法に関する領域	教授・学習の課題と実践	2 よりよい教授行為を行うためには、人がどのように学び、どのようにつまずき、どのように深まるかについて、実践的な知識を持つことが不可欠である。しかしそのような知見は、心理学の学習理論を視点として持ちつつ実践を見る目を養わなければ容易には身につかない。本授業はそのような人の学びのプロセスについて、知識・技能の習得と活用などの観点から理解し、それを踏まえて児童生徒のつまずきに対応した指導方法を知り、言語活動や協働学習なども含めた適切な学習指導方法を構想する力量の向上を図る。	幼小中高養栄
		思考・判断・表現力育成の課題と実践	2 人の思考の性質や思考を刺激する方法について理解するとともに、児童生徒の思考に対応したさまざまな指導方法を知り、児童生徒の思考・判断・表現の現状を想定しつつ、状況に合わせて適切な学習指導方法を構想できる力量の向上を目指す。	幼小中高養栄
	③ 生徒指導・教育相談に関する領域	生活指導・生徒指導の実践と課題	2 生活指導・生徒指導及び教育相談の意義や実践、課題等について理解するとともに、現任（採用希望）校の実際を事例にしながら現在の生活指導・生徒指導と実践上の問題点や反省点を分析しつつ、教育課程内外の活動の融合や個に応じた指導、時代や社会が要請する諸事項に応えうる生活指導・生徒指導の力量の向上を図る。	幼小中高養栄
		学校不適応への実践と課題	2 学校不適応及び特別支援の意義や実践、課題等について理解するとともに、現任（採用希望）校の実際を事例にしながら現在の生徒指導と実践上の問題点や反省点を分析しつつ、教育課程内外の活動の融合や個に応じた指導、時代や社会が要請する諸事項に応えうる学校不適応及び特別支援教育の力量の向上を図る。	幼小中高養栄
	④ 学級経営・学校経営に関する領域	学級経営の実践と課題	2 学級経営の意義や実践、課題等について理解するとともに、現任（採用希望）校の実際を事例にしながら現在の学級経営と実践上の問題点や反省点を分析しつつ、教育課程内外の活動の融合や個に応じた指導、時代や社会が要請する諸事項に応えうる学級経営の力量の向上を図る。	幼小中高養栄
		学校改革の実践と課題	2 学校教育の現在と改革の方向性について、中央教育審議会答申等の基本資料を読みとりながら理解するとともに、実践事例を分析することによって、学校経営の構想力を養う。そのうえで、有効な学校改革ビジョンを作成する。	幼小中高養栄

区分	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程
共 通 科 目	⑤ 在 学 校 教 育 に 育 関 と す 教 員 領 の 域	学校教育・教員のあり方の 課題と実践	現在の学校教育に求められている役割について、中央教育審議会答申等の基本資料を読みとりながら理解するとともに、家庭や地域との連携に関わる実践事例を分析することによって、学校教育と教員の在り方について検討する。そのうえで、自身のこれまでの教員としての在り方について、合理的反省を行い、今後の指針を作成する。	幼小中高養栄
		沖縄の学校と社会	沖縄県の教育について社会とのかかわりなどより広い視野からの実態と課題の理解を進め、教育上の諸課題を明確にしなが ら、これまでの実践例を検討して、課題解決に有効な実践的な指導力を養う。	幼小中高養栄
選 択 科 目	学 習 指 導 に 関 す る 科 目 群	授業分析・リフレクション の理論と実践	学校教育実践を研究する際の主たる方法である授業研究について、その分析方法を学び実際の学校現場での研究に適用できることをねらいとする。授業では、実証的に評価する方法論とそれをどのように振り返りに活かすのかというリフレクションの在り方から構成する。	幼小中高養栄
		言語活動と協同学習	思考・判断・表現力や学習意欲、多様な人間関係を結んでいく力を育成する方法としての言語活動ならびに協同学習について理解するとともに、沖縄県の現状を幅広く知り、また先進校の実践に触れることを通して、適切な言語活動や協同学習を通して思考力や学習意欲、人間関係力を高める授業について構想できる力量の向上を目指す。	幼小中高養栄
		理数系授業づくりの理論と 実践	理科・数学（算数）は科学技術創造立国の基盤として特に重要であるが、国際学力調査等によれば、日本の子どもたちは、学年が上がるにつれ理数系科目への興味を失い、生活や将来の職業とも結び付きにくくなっているのが現状である。そのため、学校現場においては、子どもたちの理科・数学（算数）への興味関心を高める学習指導の改善・充実が求められている。本授業では、理科・数学（算数）の事例研究や模擬授業の実施を通して指導法の工夫や改善について学び、理科・数学（算数）における指導力の向上を図る。	
		授業づくりの理論と実践	授業力の向上に必要な指導技術等について理解するとともに、事例研究・グループ討議等の授業形態を取り入れた実践形式で授業を行う事によって、児童生徒の活用力を高める実践的指導力を養成する。	幼小中高養栄
		学習指導のための教材・教 具の開発と活用	学習意欲を高め、効果的な授業を行う上で、適切な教材・教具の開発や活用を行うことは重要な役割を持っている。そのため、学習教材・教具の開発・活用に当たっては、身近な素材や地域の特性を活かした取り組み、今後学校現場での活用場面の増加が予想されるICT機器等、についての効果的で適切な活用が求められている。これらの内容について個別の事例研究等を通して学び、教育現場に即した実践的指導力の向上を図る。	幼小中高養栄
		活用力としての教科外活動	教育課程における教科外活動の意義を検討した上で、活用力を使うことによる教育目標に対する有効性を確認する。また、積極的に教科外活動を活用する実践力を養う。	幼小中高養栄
		授業づくりと指導法の高度 化	課題研究などで各教科の授業実践に関する課題を設定した院生を対象に、教材内容や最適な指導法を吟味し、教材研究法と学習指導の方法を考察する。そのことを通して、学力の向上の方途を解明する。問題の焦点は、受講者が課題解決に取り組む学校種・教科・単元の教材研究の具体的方法と、それを生かした学習指導の実際を構想できるようになることにある。	

区分	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程	
選 択 科 目 群	生徒指導に 関する 科目	積極的生活指導・生徒指導	2	これまでの教育相談・生活指導・生徒指導を分析、検討した上で、幼稚園、小・中学校・高校における教育相談・生活指導・生徒指導の積極的な実践展開による有効性を確認する。また、積極的な教育相談・生活指導・生徒指導の実践的な展開を可能にする方略を含めた資質・能力を養う。	幼小中高養栄
	生徒指導に 関する 科目	いじめ問題への対応と課題	2	これまでのいじめ問題を分析、検討した上で、いじめ問題の実態把握、背景理解、解決過程を事例に即して検討し、有効性のある指導を確認する。また、いじめ問題への実践的な対応力を養う。	幼小中高養栄
	生徒指導に 関する 科目	こども支援のための地域・保護者との協力関係づくり	2	学校教育は学校での児童生徒理解に基づく生徒指導を基盤として成立している。この授業では児童生徒を学校外で支える地域や保護者との協力関係づくりについて検討しながら、生徒指導上の課題解決に有効に活用していくための実践的な指導力を養う。その中で、具体的な地域や保護者との協力づくりについて、これまでの各自の取り組みを振り返り、意味付け、方法と成果及びその意義を確認していく。	幼小中高養栄
	生徒指導に 関する 科目	特別な支援を必要とするこどもの理解と実践	2	学校には、障害が認識されていないものの学習上又は生活上の困難のある子どもを含めて、様々な支援の必要な子どもたちがいる。特別な支援を必要とするこどもの適切な把握と対応策、保護者や関連諸機関との連携の在り方等について個別の事例研究等を通して学び、特別な支援を必要とするこどもへの適切な指導及び支援を行う力量の向上を図る。	幼小中高養栄
	生徒指導に 関する 科目	新時代こども支援活動	2	沖縄県の生徒指導について実態に基づいて概観して、現代社会の新たな課題を踏まえた生徒指導の在り方について検討する。また新しい時代の生徒指導に向けた見識を広め、それを有効に活用しながら、課題解決に向けた実践的な指導力を養う。	幼小中高養栄
目 録	組織運営に 関する 科目 群	地域と学校の在り方	2	学校と地域との関係について、これまでの変遷を歴史的に学ぶとともに、現在、求められている学校と地域との連携について、中央教育審議会答申等の基本資料を読みとりながら理解する。また、PTAについては、これまでの経緯と同時に現在の課題を検討し、その解決に努める各地の実践例を詳しく調べる。そのうえで、現任校のPTAについて合理的反省を行い、地域を含めた有効な連携案を作成する。	幼小中高養栄
	組織運営に 関する 科目 群	校内研究組織の実践と課題	2	校内研究組織の在り方について検討し、より実践的で有効な校内研究組織の構築に向けた運用方法を理解する。また、模擬的な校内研究組織を想定して検討することで、教育上の課題解決に有効に活用していくための実践的な指導力を養う。	幼小中高養栄
	組織運営に 関する 科目 群	組織的意思決定マネジメント	2	目的に達成する能力を効果的に伸ばし続けられる、学習する組織を作るためには、よりよい討議ができよりよい意思決定ができるようファシリテートする必要がある。そのために、事例を通して意思決定のプロセスを知り、適切な意思決定を妨げる要因やよりよい意思決定を促す方法を知るとともに、模擬的な意思決定を受講生同士でファシリテーションすることにより、よりよい意思決定ができる組織を作り出す方法を構想できる力量を育成する。	幼小中高養栄
	組織運営に 関する 科目 群	教師の成長とメンタリング	2	受講者のこれまでの教職経験を振り返ることを出発点にし、初任者段階から教師としての職能開発・成長に何がどのように影響してきたのかを相互に交流する。現職院生は実際に学卒院生と教職大学院での教育課程全般で学びを共同して行く中で、経験の浅い者にどのような支援が適切なのか、どうすれば協働的人間関係・環境が構築できるのかを相互に検討・検証する。とりわけ教職員が協働・共同して沖縄県の教育課題に応える教職員集団のあるべき姿に迫る。	幼小中高養栄

区分	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程
選 択 科 目	学校経営に関する科目群	学校安全管理	学校現場が対応しなければならない安全管理について、児童生徒が被害者となりうる事象について、これまで起きた事件・事故（いじめ、正課中の事故など）や受講者の経験を基にその対応策を学ぶ。また、想定外の事象が生じた際の在り方をイメージすることを通して不測の事態に対応する資質・能力を養う。これらのことを元に、とりわけ沖縄県の教育課題にある「学習指導の充実」や「生徒指導の充実」に、ここで養われた資質能力が下支えになることをめざす。	幼小中高養栄
		学校マネジメント	学校経営を行ううえで不可欠の法的事項について概観したうえで、これまでに蓄積された学校教育に関わる裁判例を始めとした実際の事例を分析する。その際、判決文などを分析することによって、法的責任について理解する。そのうえで、自身がこれまでに体験した問題事例を振り返りながら、適切な処理とは何かを検討する。	幼小中高養栄
		学校と地域との連携の実践と課題	現在求められている学校と地域との連携について、現在の各人の勤務校（あるいは教育実習校）での実態を足掛かりに、中央教育審議会等の資料を読んで概観したうえで、成功例だけでなく失敗例を含めた実際の連携事例を検討し、その現状と課題を明らかにする。さらに、沖縄県で行われている実践事例について、自身の経験したものも含めて報告し、それを批判的に検討したうえで、改善プランを作成・提案する。	幼小中高養栄
選 択 科 目	特別支援教育に関する科目群	特別支援教育特論	障害児者を取りまく社会情勢の目まぐるしい変化に伴い、特別支援教育は大きく変革を遂げてきた。これまでの特殊教育から変遷してきた過程及び障害児者の教育について振り返り、障害のある個々の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進について検討する。また、特別支援学校が果たす役割（センター的機能）と組織的な運営について理明らかにした上で、障害のある子どもの体制整備について検討を加え、教育制度を踏まえた共生社会の実現に向けその方策について提案する。	特支（必修）
		特別支援教育システム論	「一人一人の教育的ニーズを把握し、必要な支援を提供する」という特別支援教育の理念を踏まえ、特別支援教育を多面的に理解し、インクルーシブ教育システム構築の具現化を図り、特別支援教育推進に向けたシステムについて把握する。さらに、特別支援学校の校内支援体制及びセンター的役割についての組織的運営の開発の展望を示す。	特支（必修）
		特別支援教育コーディネーター論	特別支援学校の特別支援教育コーディネーターは中核的存在であり、学校、保護者、関係機関との連携・調整という支援体制の構築及びセンター的機能としての域内の相談と支援体制の整備を担っている。特別支援学校におけるコーディネーターの果たす役割を、諸外国での取組及び特別支援教育の制度から概説し、その課題を明確にした上で、地域の特別支援教育の推進に向けたコーディネーターとしての専門性と資質について検討する。	特支
		特別支援教育の教育課程・授業特論演習	特別支援教育の教育課程を構成するために必要な基本的な概念と要件を検討する。障害児教育・特別支援教育の教育課程を歴史的に検討しながら、特別支援学校の教育課程及び授業の在り方について考察する。また、特別支援学級等における教育課程や授業の在り方についても考察する。さらに、障害のある児童生徒の発達に視点をあてた授業づくりとして、教育内容、教材・教具の検討、指導過程の検討を行い、個々の教育的ニーズに応じた教育実践を検討する。	特支
		特別支援教育・地域支援の理論と実践	重複・LD等（LD、ADHD、情緒）、自閉スペクトラム症、知的障害のある子どもたち、発達支援の必要な子どもたちとの関わりを通して特別支援教育と発達支援について理解を深める。子どもたちとの関わりや教育実践、地域支援活動を通して、子どもたちの日常の生活のなかの「共生社会の形成の基礎」となる体験から特別支援教育・インクルーシブ教育および地域発達支援の理論と実践について検討する。	特支

区分	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程
選 択 科 目	特別支援教育に関する科目群	障害児理解と教育実践・発達臨床支援	重複・LD等（LD、ADHD、情緒）、自閉症スペクトラム、知的障害のある子どもたちや 発達支援を必要とする子どもたちとの関わりについて理解を深めるとともに発達臨床的視点、心理学的視点を以て教育実践、発達臨床支援について検討する。さらに、専門家と連携・協働による「チームとしての学校」を展開、発展させ、地域における教育実践力について理解を深め、理論と実践の往還にて高度な障害児臨床支援における実践力を習得する。	特支
		肢体不自由児の理解と支援	特別支援教育における専門家として求められる技術や知識を念頭に置きつつ、肢体不自由教育に関する心理・生理・病理的側面についての基本的知識を学ぶ。また、それらをおさえた上で、教育課程と指導法を踏まえた授業づくりに関する発表とディスカッションにより理論と実践の往還を図る。	特支
		病弱児の理解と支援の探究	病弱児について、学習指導要領および解説を理解した上で、全国の教育センターや病弱特別支援学校のホームページなどから、多様な教育課程について検討する。また、全国の教育センターやインクルーシブ教育システム構築支援データベースを題材に授業案を分析するとともに、用いられている指導法について検討する。さらに、病弱者の心理、生理、病理について医学・医療、教育学、心理学的な立場から多面的に概説し、病弱教育の指導・支援及び評価について検討する。	特支
		重複障害児の理解と支援	特別支援教育における専門家として求められる技術や知識を念頭に置きつつ、重複障害教育に関する心理・生理・病理的側面についての基本的知識を理解する。また、それらを踏まえた上で、教育課程と指導法についての理論と実践（授業づくり）の検討する。	特支
実 習 科 目	実習科目群	課題発見実習Ⅰ	附属学校を中心とした実習学校での教育実践の観察を通して、児童生徒の成長と発達を支援する教師の役割を把握する。実習学校での学級活動、研究授業、校内研究会等に参加し、留意点等を理解する。	
		課題発見実習Ⅱ	公立学校を中心とした現任校（採用希望校）と同校種での実習学校での実習を通して、児童生徒の成長と発達を支援する学校教育活動を分析・評価し、改善点を考察する。	
		課題解決実習	現職院生（1年間派遣者）は現任校、学卒院生並びに2年間の派遣が許された現職院生は、現任校（採用希望校）と同校種の実習学校での実習で、自らの課題を解決するための教育実践を行う。その実践を分析・評価し、課題解決を図る。	
		インターン実習	教職未経験者（学卒院生）を対象に、課題解決実習に合わせて実習学校で副担任相当の業務をする実習を行う。教員就職後に即戦力として活躍できるための準備として、ジョブシャドウイングを行う。具体的には、教科指導や学級活動等では学級担任（教科担任）の業務を行う。校務分掌等についても実習指導担当教員の補助をしながら体験する。	
特別支援教育に関する実習科目群	課題発見実習ⅠA（特別支援教育）	1	附属学校を中心とした実習学校での教育実践の観察を通して、特別な支援が必要な児童生徒への指導・支援する教師の役割を把握する。実習学校での学級活動、研究授業、校内研究会等に参加し、留意点等を理解する。	（特支必修）
	課題発見実習ⅠB（特別支援教育）	2	課題発見実習ⅠAで明確になった課題に対し、視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱の各特別支援学校にて自己の課題研究テーマに沿って観察を中心とした実習を行い、教育実践における資質能力の向上と教育研究上の実践的課題の解決を教職大学院で学んだ理論と融合しさらなる課題の明確化と解決策を考察する。	特支（必修）
	課題発見実習Ⅱ（特別支援教育）	4	課題発見実習ⅠA・ⅠBで明確になった課題に対し、特別支援学校にて自己の課題研究テーマに沿って実習を行い、教育実践における資質能力の向上と教育研究上の実践的課題の解決のための授業実践と支援体制等の構築についての理論的背景を見だし、分析し（省察）自らの課題を明確にする。	特支（必修）

区分	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程	
実 習 科 目	特別支援教育に関する 実習科目群	課題解決実習 (特別支援教育)	4	現職院生(1年間派遣者)は現任校,学卒院生並びに2年間の派遣が許された現職院生は,現任校(採用希望校)と同校種の実習学校での実習で,自らの課題を解決するための教育実践を行う。その実践を分析・評価し,障害のある子どもの指導・支援体制等の課題解決を図る。	特支(必修)
		インターン実習 (特別支援教育)	2	課題発見実習IIにおいて実習した特別支援学校における観察実習及び協働的实践を通して,障害や困難のある児童生徒の授業及び校務全般に関わり,自己の教員としての更なる資質能力の向上と教育研究上の実践的課題の発見と解決に取り組む。連携協力校(特別支援学校)での観察・協働実習から,障害のある児童生徒や教育的支援を要する児童生徒への授業実践と支援体制等の構築について分析し(省察)自らの課題を明確にする。	特支
課 題 研 究 科 目	課題研究科目群	課題研究 I	2	受講者のこれまでの教職経験を振り返ることを出発点にし,学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するためには具体的に「何を」「どのように」するのかという方向性を明確にする。その課題の本質を受講生や担当教員との意見交換を通して明らかにする。	
		課題研究 II	2	課題研究Iでの課題意識をベースに,課題発見実習IIの受け入れ先である連携協力校での課題と結びつけながら学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するために具体的に解決策を実践する。その結果に対する考察を行い,受講生や担当教員との意見交換からその課題の本質を明らかにする。	
		課題研究 III	2	課題研究I, IIでの課題意識をベースに,課題解決実習の受け入れ先である連携協力校での課題と結びつけながら学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するために具体的に解決策を実践する。その結果に対する考察を行い,受講生や担当教員との意見交換からその課題の本質を明らかにする。	
		課題研究 IV	2	課題研究 I, II, IIIでの課題意識をベースに,課題解決実習の受け入れ先である連携協力校での課題と結びつけながら学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するために具体的に解決策を実践する。その結果に対する考察を行い,受講生や担当教員との意見交換からその課題の何がどう解決し,まだ残る課題が何であるのかを明らかにする。	
	特別支援教育に関する課題研究科目群	課題研究 I (特別支援教育)	2	受講者のこれまでの教職経験を振り返ることを出発点にし,学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するためには具体的に「何を」「どのように」するのかという方向性を明確にする。その課題の本質を受講生や担当教員との意見交換を通して明らかにする。	特支(必修)
		課題研究 II (特別支援教育)	2	課題研究Iでの課題意識をベースに,課題発見実習IIの受け入れ先である連携協力校での課題と結びつけながら学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するために具体的に解決策を実践する。その結果に対する考察を行い,受講生や担当教員との意見交換からその課題の本質を明らかにする。	特支(必修)
		課題研究 III (特別支援教育)	2	課題研究I, IIでの課題意識をベースに,課題解決実習の受け入れ先である連携協力校での課題と結びつけながら学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するために具体的に解決策を実践する。その結果に対する考察を行い,受講生や担当教員との意見交換からその課題の本質を明らかにする。	特支(必修)
		課題研究 IV (特別支援教育)	2	課題研究 I, II, IIIでの課題意識をベースに,課題解決実習の受け入れ先である連携協力校での課題と結びつけながら学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するために具体的に解決策を実践する。その結果に対する考察を行い,受講生や担当教員との意見交換からその課題の何がどう解決し,まだ残る課題が何であるのかを明らかにする。	特支(必修)